

▽地域の明日を拓く△

# 上米内 ウルシ GO!

## 地域のランドマークでウルシを活かす

▽地域への来訪人口を増やす

「ウルシで上米内を元気にする!」と書いたのぼり旗を駅舎に立て半年が経つ。

2019年春、JR東日本の無人駅を利用した地域活性化企画に採択された。そして、2020年4月29日、しだれ桜が美しい米内浄水場の前にあるJR山田線上米内駅に、駅機能を維持しながらウルシをテーマにした施設がオープン。

コロナ禍で制限された状況の中、いつでも「来てください」と大きな声で案内ができるよう、里山の施設でありながら空調、Free WiFi、コーヒーの提供ができる設備を導入し、漆器やウルシ染め製品、そしてウルシの種や苗の栽培セットを販売。漆器の金継ぎ体験や、駅裏に立つ宮沢賢治が愛した高洞山の登山イベントの企画、ウルシ増産支援の要請などの発信を続けている。

大変ありがたいことに、これまで県内の各

メディアに取り上げていただき、弱小な発信力しかない我々にとっては深く感謝するところである。

そうしたところ、地元や内外のウルシに関心を持つ人、コーヒーを飲むだけの人、自転車・バイク、ドライブなどで移動の途中に立ち寄る人だけでなく、上米内駅や鉄道を目的に来る人、さらにはテレワークや打合せに加え、飲料提供者、産直品を持ち寄る地域の人、そして上米内駅は我々の事務所でもありその関係者など、「場」があることによつて様々な方にご来訪いただいている。

上米内や駅に来ていただいたのに、そのまま帰ってもらっては来訪者もこちらもつまらない。

そこで、この9月には「上米内エリアマップ」を地域の事業者4社で共同製作し、地域内で店舗営業をしている各所に配置の願いをした。いらした方に上米内を地域全体で食事、買い物、観光といった探索をして回遊し

てもらおうためのツールである。

駅を訪れる人のほとんどが「人のいる無人駅?」「なぜ上米内でウルシなの?」と疑問を持つ。上米内駅に立ち寄ってもらうことで疑問が解決し、少しずつ上米内とウルシを知る人が増えていると思う。

▽地域を離れ別な環境で過ごす経験

小・中・高と、上米内から街中の学校へ通学していた私は、いつしか市街地暮らしに夢を持ち、大学進学をきっかけに東京暮らしが実現した。東京で結婚して住まいを購入し二人の子供を授かった。

家族を持ったことをきっかけに、地域の人々の中で暮らしていることを改めて感じるようになってきた。マンションで共に暮らす世帯の一員として管理組合員というコミュニティや子育て家族との出会いと交流、そしてお盆と正月の帰省など実家帰りをとても楽しみに



一般社団法人次世代漆協会  
(盛岡市)  
代表理事

細越 確太



様々な機能を持った上米内駅



駅舎内のコミュニティスペース

米内は以前はウルシの産地であったと地域の高齢者から聞いたこと、そしてウルシを日本が失うことの無いように取り組む方と出会ったこと。これらが重なり、上米内におけるウルシ育成の可能性に取り組み始めた。衰退する林業、

米内は以前はウルシの産地であったと地域の高齢者から聞いたこと、そしてウルシを日本が失うことの無いように取り組む方と出会ったこと。これらが重なり、上米内におけるウルシ育成の可能性に取り組み始めた。衰退する林業、

している子供たちと爺婆。そしてその爺婆が他界し、今度は東京を離れ家督を継ぐため家族4人で上米内へ移住。空き家になった家に再び人の気配が戻った。「よく帰ってきた」と親族や私を知る上米内の住人の方々。地域の人たちが喜んでくれた姿は忘れられない。世帯があれば人は戻れる。人がいれば地域は喜ぶ。このことが活性化のひとつの姿とも重なり、一度地域を出たことが良い経験となり、今では胸を張って里山・上米内を発信している。

▽地域資源を発掘・創造し地域産業化を目指す

の直面した課題となった。さらに遺産相続。無価値と思っていた山ばかりの土地財産。そして思ったことが、「やることはないが時間はある。そうだ山を確認しよう!」。背水の陣、山をどうすればお金に換えられるのかの勉強も始めた。価格は安い木は売れる、さらに木によっては特徴を活かした利用方法がある、などのことがわかり、商品価値(木の名前)を確認しながら山を歩いた。そして山が無価値なのではなく、林業のシステムに課題があることがわかった。自身による作業を行えば収益は手元に残り、山も生き返る。林業の6次産業化。自伐林業という林業スタイルを目指すことになる。そしてこの発意と行動が、ウルシに出会うこととなった。ウルシは需要がひっ迫していることや、上

ウルシ産業。だが上米内でウルシは育つ。育てる敷地として自分の山をさせる。山をあきらめていた地域の人に使い方を示せば、林業に動きが出る。上米内でウルシ産業が萌芽する。活動をし始めるとウルシや山を日本から失うことの無いように取り組むより多くの魅力的な人たちと出会った。

▽わかったこと、これからのこと

世界では国連が持続的発展のための17の目標「SDGs」を提示している。これは遠い別世界の動きではない。

ウルシで上米内の地域と産業が活性化するために、住人や来訪者が関心を持って学べるようにし、そうした取り組みが社会の役に立ち発展に繋がること。山の豊かさを守りながら、住み続けられる地域にしていこうとすること。これらはSDGsへ向けた取り組みそのものである。

これまで来訪者が無かった地域・施設に、一日たった一組でも訪れてくれる方がいる。上米内駅の取り組みを知り、いろいろな提案や企画を語ったり持ってくる方がいる。十人十色の視点、豊富な経験と様々な尺度を持つ方々。駅の拠点化のおかげで、いろいろな知見と行動力を持つ方々と出会える。

「まずは、やってみんしゃい」と、経営の神様の声が遠くから聞こえてくるようだ。ウルシは縁をつなげる接着剤。上米内と駅の拠点化でくっついたものを活かしていきたい。